

《山口県》

はぎやき
【萩焼】



三輪壽雪（十一代休雪、1910-2012）
鬼萩窯変割高台茶碗
2006年
高 11.2cm、口径 16.2×15.3cm
山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

「ざんぐり」とした美感を特長とする萩焼の作陶技術は、桃山時代以来 400 年余りの歴史があります。朝鮮半島由来のこの技術は、毛利家中（萩藩）の御用窯を中心に継承されてきましたが、近代以降は伝統の素地土と釉薬を受け継ぎながら、その特徴を自己表現に活かす個人作家の造形活動として展開されています。

三輪壽雪（十一代休雪、1910～2012）は重要無形文化財「萩焼」の保持者（人間国宝）として、伝統の素材と技術を伝承しつつ、現代の感覚に重きを置いた創造的な茶陶づくりで、高い芸術性で魅せる独自の作風を確立しました。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
「萩焼 三輪壽雪の茶陶」展	令和2年 1月21日～ 4月12日	山口県立萩美術館・浦上記念館 (萩市平安古町 586-1)	電話 0838-24-2400